

令和4年度 野庭地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

<地域の現状>

- ・コロナウイルスの感染状況が収まらず2年が経過する中、地域の既存の活動が現在も制限され、繋がりのある関係、繋がりづくりに大きな影響を与えており、自治会活動、サロン運営、ボランティア活動等に苦慮されています。
- ・野庭エリアは急速な高齢化に伴い、認知症高齢者も増加し日常生活において多種多様な問題が発生しています。
- ・小さなコミュニティ(町会、フロア、階段単位等)での見守り、助け合いができる仕組みが求められています。
- ・複雑な事情を抱えたご相談が増え、対象者の支援に限らず、家族も含めた世帯全体の支援が求められています。

<今後の方向性>

- ・コロナ感染拡大防止の取り組みの継続とコロナ禍での安全安心な地域活動支援
- ・総合相談対応の充実
- ・地域包括ケアの推進(見守り事業、介護予防・生活支援事業、地域支援者サポート等)
- ・港南ひまわりプランの推進

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	必要な情報を必要とする人に届けるために、情報発信に力を入れます。 ・ケアプラザを知って頂くために転居時、自治会等入会時に「地域ケアプラザ冊子」や「のぼ生活応援マップ」を関係機関と連携し配布いたします。 ・ケアプラザホームページに地域の生活支援情報を掲載します。 ・野庭エリアで活用できる配食サービス事業者一覧・のぼ生活お役立ち情報通信(ケアマネジャー向け)を作成、発信致します。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	子育て支援事業の再開に力を入れます。 ・親子向けの子育て事業、「はっぴ〜たいむNOBA」を立ち上げ定期開催をいたします、地域の子育て情報の発信や子供に関する講座等の場も設けていきます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	野庭地域において認知症の理解や支え合いの輪が広がるよう普及啓発に力を入れます。 ・「NOBAメイトの会」と連携し、地域の方を対象に認知症サポーター養成講座を令和4年7月23日に開催します(2回/日)。 ・新型コロナウイルスの影響により、研修の機会も少なくなったことでNOBAメイトの会(キャラバンメイト)のメンバーが減少傾向にあります。キャラバンメイトの講習会にお誘いをしてお仲間づくりにも力を入れます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	野庭エリアの地域活動の活性化や見守り体制強化のための協議の場を作ります。 ・シルバークラブやボランティア団体など運営主体の方々と、コロナ禍における地域活動について情報交換できる場を設けます。課題や、悩みに沿った、体制の強化や新規団体立ち上げの支援方法を検討します。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	港南ひまわりプラン及び地区別地福計画を推進いたします。 ・包括エリア(野庭団地地区、野庭住宅地区、永野地区)について、地区別計画を元に、どのような取り組みが行われているか、エリア内居宅支援事業所を中心に、情報提供する場を設定いたします(1回/年)。その後、各地区の意見交換会にケアマネジャーが参加できるよう調整を行います(1回)。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

今年度はコロナ禍3年目となり、感染対策を継続しながら再開した事業や地域活動が増えてきました。ケアプラザでは、子育て支援事業「ハッピー😊たいむNOBA」が地域ボランティアの方々、貸館登録団体、幼稚園・保育園等の協力を頂きスタートしました。また、地域の集いの場やボランティア活動の多くは休止状態であり、「地域活動交流会」を開催し、コロナ禍での団体皆様の不安や悩みをお聴きでき、とても有意義な場となりました。その他に「地域ケア会議(自分らしい生活を実現するためのサービス活用)」「見守りネットのぼ連絡会」も開催しました。必要としている方に情報を届けるためには、人とのつながりや交流が大切であること、「お互い様の助け合い・自分の立場でできることを行う」などの意見が参加者である地域住民の方々、関係団体、事業者より意見が上がりました。どちらの会議でも情報を共有することは地域活動を活性化する原動力となることを実感いたしました。認知症普及啓発事業としてNOBAメイトの会と共に認知症サポーター養成講座を開催、権利擁護事業として地域住民の方々に向け出前講座(成年後見制度、悪質商法防止等)も積極的に行いました。

今年は野庭地域ケアプラザは野庭地区センターと併せておかげさまで20周年を迎えることができました。地域の皆様へ感謝も込めて「野庭ふれあいまつり」を3年ぶりに開催させて頂きました。当日は天候にも恵まれ、老若男女問わず多数の方々に足を運んで頂き、顔を合わせて交流することの大切さを改めて感じました。次年度も野庭地域の福祉拠点としての役割を果たしていけるよう専門性と協働力を発揮して地域の皆様、各関係機関・関係団体と連携し個別支援、地域支援に努めていきます。

区からのコメント

認知症単身高齢者や高齢の親と障害のある子どもの世帯など、複合的な課題を抱えた相談、緊急対応が必要な相談が増えています。区や関係機関と連携し、フットワークよく丁寧に対応しています。地域ケア会議では「自分らしい生活を実現するためのサービス活用」をテーマに活発に意見交換がなされました。非常に多くの関係者が参加し地域課題を共有できているので、地域ケア会議で出た意見を5職種で共有し、地域の方と共に解決に向けた具体的な取組みが連動して展開されることを期待します。

人とのつながりや交流を大切にしている様子がよくわかります。地域アセスメントに必要な「地域の情報」や「課題」は、ケアプラザであればこそ把握できるものも多いかと思っておりますので、引き続きそれらの把握と関係機関との共有をお願いします。「地域活動団体交流会」や「見守りネットのぼ」の開催により気づきが生まれたことは良かったと思います。単に地域活動への参加や事業開催が目的化しないよう意識しているようですので、今後の活動にも期待します。